

首都大学東京 都市環境学部

建築都市コース 竹宮研究室(分野:建築計画)

医療・福祉施設研究から導く高齢化時代の理想空間 多様性に富んだテーマと進路が魅力の計画系研究室

学生時代の“看護体験”が原点
魅力は活発なフィールドワーク

大学の建築学科には通常、意匠・構造・設備・計画(環境)などの専門分野があり、学生はそれぞれの希望進路に沿った系統の研究室を選ぶ。例えば、デザイン志向の強い設計者・建築家志望は意匠。構造計算や工法の開発に携わりたいなら構造。照明や電気、窓ガラスなどの専門家は設備、ということで、これらは建築士や設備士など、具体的な資格・スキルに直結する「エンジニアリング」の色合いが濃い。

だが、公共のインフラ整備や環境共生型の建築、都市開発、まちづくりを考える計画系は社会、経済、医療など人々の生活にかかわる幅広い領域を含む「トータルサイエンス」の世界。医療・福祉施設の建築や都市の公共施設を利用者の視点で研究する首都大学東京都市環境学部の竹宮健司先生も、そんな“計画系研究者”の一人だ。

「大学時代に日野原重明先生(聖路加国際病院名誉院長)の本を読んでホスピスに関心を持ち、卒業論文はがん病棟をテーマに選びました。以来、医療・福祉施設の研究がライフワークのひとつになっています」

病院といえば患者さん本位の施設と思いがちだが、実際の設計は必ずしもそうではない。そこに竹宮先生の問題意識がある。

「病院を建てる時に設計者が重視するのは管理者(経営者)の意向。患者さんはもちろん、医師や看護師など働く人たちの意見

もあまり反映されないんです。また、医療設備の急速な進歩に“器”が追いつかない、という現実的な問題もありますね」

そんな竹宮先生のモットーは徹底した実証主義。学生時代に取り組んだがん病棟の研究では2週間、看護助手の助手として病院に通い、病院建築の現状を自らの目でつぶさに観察した。竹宮研究室の特色である活発なフィールドワークはその体験が原点になっているようだ。

特定分野の研究にとどまらない
総合的な人間力とスキルを養成

「私たちのように現実の問題を研究する上で不可欠なのは常に“現場”にいること。現場でナマの声を吸い上げ、問題点を明確にする過程で応用力とコミュニケーション能力が培われるんです。建築は特定の資格や専門スキルにつながる学問というイメージも強いですが、この分野においては総合力が大きなポイント。卒業生たちの幅広い進路がそれを物語っています」

その言葉通り、竹宮研究室のOB・OGの就職先は設計事務所や金融、コンサルタントなど実に多様。決して「特別な人々の特殊な施設の研究」ではないことがわかる。

「患者さんの生活の質(QOL)やバリアフリー、ケア・介護に配慮した空間づくりは、高齢化時代の公共施設や住宅の設計にフィードバックできるんです。研究室には自治体と連携して地域のコミュニティセンターを研究した学生もいますし、私自身、日野市のユニ

都市環境学部 竹宮 健司 教授

Profile

東北大学工学部建築学科卒業、同大学院修士課程終了後、東京大学大学院で博士後期課程を修了。病院・ホスピスなど医療・福祉施設の建築計画をはじめ、公共施設のユニバーサルデザイン計画、地域生活支援プロジェクトにも幅広く参画している。

バーサルデザイン計画など、医療施設以外のプロジェクトにも積極的に参加しています。「器の研究」に終わらず、常に人々の暮らしと結びつけて問題を探り出す。そういう力を身につけているから、いろいろな分野で活躍できるんでしょう」

その多くが工学部に設置されている建築学科に「エンジニア志向」が強いのは当然のことだが、建築学は本来、美学や心理学、社会学、経済学などあらゆる知識と知見が必要な総合領域。竹宮研究室の多様性は、「都市環境学部」に設置され、意匠系から計画系までを幅広くカバーする建築都市コースの特色でもある。漠然と「建築系」に関心を抱く受験生には魅力的な選択肢だ。



患者の視点に立って造られた医療施設。患者のQOL(生活の質)に配慮された構造になっている

Student Voice

財産は
隠れた改善点を発見する
幅広い視野と問題意識

都市環境科学研究科
都市システム科学域 修士1年
島津 江鈴奈さん
私立普連土学園高校卒

高校時代は医療に興味があったんですが、デザイン系の学部を出た母親のアドバイスもあり、大学では建築系の勉強をしようと思いました。ただ、建物の設計よりも都市や空間づくりに関心があり、計画系に進むことにしました。竹宮研究室を選んだのは2年の時、卒業制作を手伝った先輩がこの研究室だったから。医療に関連する研究を行おうと決めました。卒業論文のテーマは救命救急センターの建築計画。研究はフィールドワークからス

タートするのが竹宮研究室のモットーで、私も関東・関西の代表的な救命救急センターを見学し、問題点の抽出に取り組みました。救命医療は医師不足などソフト面に注目が集まりがちですが、実はハード面、つまり建物のレイアウトなどにも改善すべき点があるんです。今、あるもの(建物)にとらわれず、広い視野と問題意識を持って空間を観察する。それが研究を通して身についたスキルであり、将来必ず役立つ財産だと思っています。

- 学部所在地 : 東京都八王子市南大沢1-1(南大沢キャンパス)
- 問い合わせ先 : 〒192-0397 東京都八王子市南大沢1-1 首都大学東京 首都大学東京管理部 入試課 TEL042-677-1111
- 大学URL : www.tmu.ac.jp